

第4課 「幸いな者」

“¹イエス・キリストの默示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げられた。²ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証しした。³この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。”(黙示録 1章1~3節)

本文3節でこの預言のことばを朗読する者は単数になっており、聞く者と守る者は複数になっています。これは、聖書が一般的ではなかった当時、会堂で聖書を読んでいる人は一人であり、聞く人は複数人だったということです。そして、書かれていることを守る者たちは幸いであると言っています。ここで幸いな者たちとは救われた神様の民のことを話します。これは私たちがみことばを成就させるために実践して行うという意味ではありません。‘守る’と書いてあるギリシャ語‘テルンテス(τηρούντες/teruntēs)’は守るという意味とともに保護する、保存するという意味を持っています。そして、時制は‘未完了受動態’になっています。未完了とは過去のある出来事で終わるのではなく、過去から繰り返して継続的に起こっていることを意味します。また受動態というのは私が主体になって能動的(積極的)にするのではなく、何かによってなされることを言います。すなわち私たちは三位一体の神様によって守られているということです。

テルンテスと同じ語源を使って書いたヨハネによる福音書17章を見ると、もっと理解ができるでしょう。

“わたしはもう世にいなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのものとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。”(ヨハネ17:11)

“わたしがお願ひすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださいことです。”(ヨハネ17:15)

神様のみことばは、だれもが読んで聞いたとしても、みんなが悟るわけではありません。今、みことばを通してイエスがキリストであることを告白することができる私と皆さんには救われた神様の民であり、幸いな者なのです。